

## 自然にふれあい、ふるさと与布土（ようど）の良さを発見しよう！

朝来市立与布土小学校3年生・大槻かおり（同 担任）・藤本邦彦（山東の自然に親しむ会）

### はじめに

与布土小学校は兵庫県北部、朝来市に位置し、全校生58名、3年生8名の小規模校である。学校の周囲には田園が広がり、たくさんの自然と触れ合うことができる。しかし、その豊かな自然に気づかない児童や積極的に関わることを好まない児童もいるのが現状である。

豊かな自然に囲まれた環境の中にも、子どもたちの心の中に、自然を感じるポケット(感性)のような物がなければ、四季折々に変化する山の色や、虫の鳴き声や、風のにおいや…自分たちの周りの自然に気づくことも感動することもなく、当たり前のこととして見過ごしてしまう。

そこで、今年度から兵庫県下で実施することになった3年生の環境体験事業のテーマを「自然にふれあい、ふるさと与布土の良さを発見しよう！」とし、地域のたくさんの人々と交流しながら、与布土の自然や環境に触れる楽しい体験や驚きの体験を通して、与布土の人と自然の豊かさに気づく感性を育て、ふるさとへの愛着や児童自身の心の豊かさを育てる取り組みとしたいと考えた。

### 取り組みの実際

#### 生き物探検第1弾「与布土の昆虫を観察しよう！」

- 1 日時 平成21年 6月2日（火）
- 2 参加者 3年生児童（8名） 職員（2名） ゲストティーチャー（2名） 藤本邦彦氏 波多野哲哉氏
- 3 活動の内容
  - ・校区内を歩きながら、昆虫を捕まえ、昆虫の名前や生態などを知る。
  - ・ウツギノヒメハナバチの巣を観察し、生態についての話を聞く。
  - ・捕まえた昆虫を思い出し、ワークシートにまとめる。
- 4 活動の発展（事後学習）
  - ・当日の活動について画像を見ながら、分かったことや感想などを出し合い、ワークシートをもとに「生き物新聞No.1」を各自作成する。
  - ・感想文やゲストティーチャーへのお礼の手紙、生き物新聞などをまとめて文集を作成する。
  - ・ゲストティーチャーから子どもたちに届いた資料をもとに、与布土の自然について話し合う。

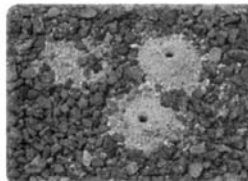
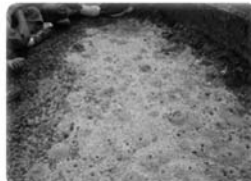


「いろんな虫がいるんだなあ。」  
波多野さんのコレクションはすごい！



この虫、なんていう名前ですか？

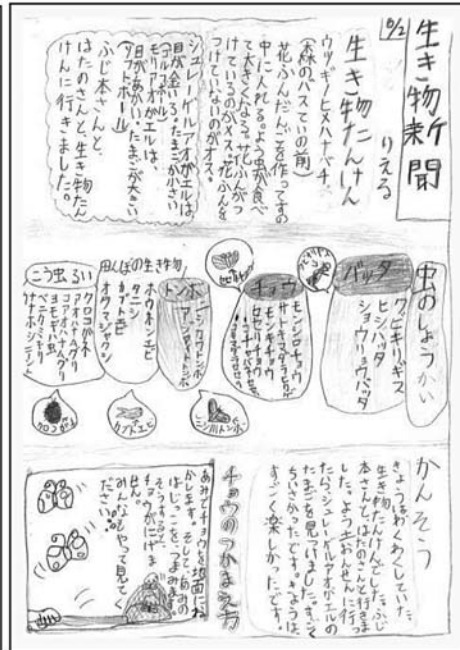
「虫つかまえるの上手やな。」って言われた時、うれしかった～



ウツギノヒメハナバチの巣をいっぱい発見！  
「ワー！毎日通っているのに気づかなかった…」

(児童の作文から) 生き物たんけん (Y児)

この前、生き物たんけんに行きました。ようちえんの方から行きました。ウツギの花がさいていました。そば工場前の田んぼに、オタマジャクシやカブトエビやホウネンエビがいました。通ったことのない道で行きました。たつやくんが、田んぼにいたすごく大きなカエルをつかまえていました。気もちわるかったです。山才から森に行つて、与布土まで行きました。森のバス停の前にウツギノヒメハナバチとあながありました。そのことをくわしく教えてもらいました。ウツギの花のかふんをつけていました。さいごに与布土温泉でトイレ休けいをしたり、小さい川で、チョウやカエルを見つけました。池のここにはしがあつたので、わたりました。きれいなチョウがいたので、みんなでおいかけました。でも、つかまえられなかつたです。つかれました。シュレーゲルアオガエルとモリアオガエルのたまごがありました。



生き物探検第2弾「モリアオガエルを観察しよう！」

- 1 日時 平成21年 6月17日 (水)
- 2 参加者 3年生児童(8名)職員(2名)ゲストティーチャー(4名)藤本邦彦氏 増田氏  
山本氏 浦野氏
- 3 活動の内容
  - ・出発前に今回の活動場所を地図でチェックし、確認する。
  - ・南但馬自然学校の雨ノ宮池と川上の田んぼに行き、モリアオガエルについて話を聞いた  
り、卵塊を観察する。
  - ・確認したモリアオガエルやその卵塊について、ワークシートに記録する。
- 4 活動の発展 (事後学習)
  - ・当日の活動について画像を見ながら、分かったことや感想などを出し合い、ワークシ  
ートをもとに「生き物新聞No.2」を各自作成する。
  - ・感想文や生き物新聞などをまとめて文集を作成する。



南但馬自然学校の雨ノ宮池には、約300個の卵塊が！！  
その卵塊を見ながら聞く増田さんのお話に興味津々の子どもたち



田んぼの畦にも、卵塊を発見！  
「卵塊の中にオタマジャクシがいる！！」

「くにちゃんのひみつの桑の実」は  
とっても甘くておいしかった～

### 児童の作文から)モリアオガエルのかんさつ(E児)

今日は、わたしが楽しみにしていた生き物たんけんです。2回目の生き物たんけんは、モリアオガエルをかんさつします。はじめに、南たじま自ぜん学校に行きました。まず田さんが、カエルの天気よほうを教えてくださいました。カエルの体から手が出ているときは、空気がしめっているから雨がふるし、カエルが手をしまっているときは、空気がかわいているときだから晴れになるそうです。わたしは、はじめて知ったので、へーって思いました。家に帰って、お母さんやお兄ちゃんにおしえてあげようと思いました。そして、雨の宮池に行きました。とちゅうでシュレーゲルアオガエルを見つけました。きれいな色をしていました。モリアオガエルとシュレーゲルアオガエルは目の色がちがうので、そこで見分けます。雨の宮池で、まず田さんにモリアオガエルのことをいっぱいおしえてもらいました。モリアオガエルは森の中にたまごをうみます。体がみどり色のカエルで、アマガエルより大きいそうです。

大きさは、6~8センチで、夜に動き出すそうです。大きいのがメスで、小さいのがオスです。木からおちないひみつは、指の先にきゅうばんがついているからだと分かりました。しらないことばかりでびっくりしました。雨の宮池には、たまごが300こぐらいあるそうです。ほんとうにいっぱいありました。わたしは、よう土にひっこしてきたので、よう土はすごいなあと思いました。

その後、川上の田んぼのあぜにモリアオガエルのたまごを見に行きました。もう、オタマジャクシが出ているのもありました。わたしは、7こ見つけました。みんなは10こみつけたと言っていました。その後、くわの実を見つけました。くわの実を食べてみたら、あまくておいしかったです。学校にもくわの実があるけど、川上のくわの実の方がおいしかったです。わたしは、よう土にひっこしてきてよかったなと思いました。

### 生き物探検第3弾

#### 「田んぼの中の生き物を観察しよう！」

- 1 日時 平成21年 7月9日(木)
- 2 参加者 3年生児童(8名) 職員(2名)  
ゲストティーチャー(約10名) 藤本邦彦氏  
三保区緑農会の皆さん  
豊岡農林水産振興事務所 大槻 隆氏  
朝来農業改善普及センター 杉本政子氏
- 3 活動の内容
  - ・「コウノトリ育む農法」と田んぼの生き物の関わりについて話を聞く。
  - ・生き物調査の方法を聞き、生き物を集める。
  - ・集めた生き物を分類し、名前を調べ発表する。
  - ・環境について、まとめの話を聞く。
- 4 活動の発展(事後学習)
  - ・集めた生き物について図鑑で詳しく調べる。
  - ・感想文をまとめて文集を作成する。



田んぼに入ってみると、トロトロ層は気持ちいいね。



「コウノトリ育む農法」は、いいことがいっぱいあるんだ。巣塔にコウノトリが来るといいな！



「イモリの赤ちゃんがたくさんとれた。」「かわいいな。」

(児童の作文から) 田んぼの中の生き物たんけん(Y児)

7月9日、今日、3回目の生き物たんけんに行きました。みほの田んぼに行って、田んぼの中の生き物かんさつしました。今日は、のうぎょうふきゅうセンターの、すぎ本さん、大つきさん、竹村さんやみほのおか林さんとおじいさん、おばあさん、ふじ本さんなど、たくさんの人といっしょにべんきょうしました。

みほの田んぼは「コウノトリはぐくむのうほう」といって、自ぜんにやさしい米作りをしているそうです。田んぼの水をぬいてしまうと、たくさん生き物が死んでしまうので、その田んぼは水をほとんどぬかないそうです。のうやくもまきません。ミミズがふんで作った「トトロそう」の田んぼは、草がはえてこないと聞いて、びっくりしました。

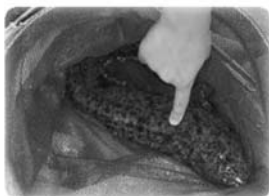
田んぼにはだして入りました。土が本当にトトロで気持ちよかったです。あみを持って入って、どんな生き物があるかさぐってみました。田んぼの横のみぞこでも生き物をとりました。わたしはイモリを見つけました。初めてでした。一人ですると、うまくとれなかったから、友だちといっしょにしてみました。そしたら、あみの中にいっぱい生き物がとれました。イトミミズが四十九ひきもいました。ヒルもとれたので、ケースに入れて、ケースの下から見てみると、ヒルの体のうらがわに何かついていて、それがケースにくっついていました。「こうやってひつつくやな。」と思いました。

マツモムシがへんな泳ぎ方をしていました。すごいなあと思いました。ドジョウはあまり見つかりませんでした。コガムシもいました。

コウノトリ育むのうほうは、人間にもやさしいと思いました。小さなムシが、大きな生き物のえさになっていきます。みほには、コウノトリのすとうがあります。五メートルもある高さです。みほの人は、自ぜんにやさしいのうほうをしているから、きっと、コウノトリもとんできてくれると思います。早くコウノトリが見てみたいです。

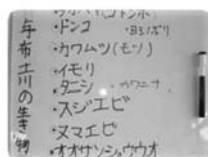
#### 生き物探検第4弾「与布土川の生き物を観察しよう！」

- 1 日時 平成21年 10月16日(金)
- 2 参加者 3年生児童(8名) 職員(2名) ゲストティーチャー(1名) 藤本邦彦氏
- 3 活動の内容
  - ・与布土川に入り、川遊びを楽しみながら、生き物を採集し観察する。
  - ・教室に与布土川の水槽を設置する。
- 4 活動の発展(事後学習)
  - ・水槽の中の魚について図鑑で調べ、ワークシートにまとめる。魚の世話をし育てる。
  - ・オオサンショウウオについて話を聞く。



川の水は冷たかったけど、川遊びは楽しかった～

初めてとれた生き物は…このオオサンショウウオ！！  
そこで、藤本さんに急ぎよオオサンショウウオの授業を  
していただくことに。実物をみた後の授業は効果的！



教室に「与布土川の水槽」ができた！！

### 児童の作文から)与布土川のかんさつ(R児)

先週の金曜日の午後から、4回目の生き物たんけん(与布土川のかんさつ)に行きました。今日もふじ本さんに教えてもらいました。たんけんした川は、与布土川の柵木からみぞ黒ぐらいまでです。川は水がすごくつめたかったです。でも、魚とりにむ中になっていたから、すぐなれてきました。この前のたい風で、魚のしゆるいはへっていたけど、川がとてもきれいになっていました。とれた生き物は、タカハヤ(ゴトンボ)、ドンコ、ヨシノボリ、カワムツ(モツ)、イモリ、サワガニ、カワニナ、スジエビ、ヌマエビ、オオサンショウウオです。

一番さいしょに、ゆうりちゃんがオオサンショウウオを見つけました！大人になった五十センチぐらいのを一ぴきつかまえました。草むらをさぐっただけで、こんなのをつかまえるなんて思わなかったので、びっくりしました。ちょっとさわってみたら、ヌルヌルしていました。かいたかったけど、世界で大切にされている生き物だから、かえませんでした。ざんねんでした。

学校に帰ってから、水そう作りをしました。六十リットルの水そうに、みんなでバケツに丸はい水をくんで、まんたんになりました。そして、ブクブクを入れて、かんせいしました。こんな本かくてきな水そうを作ったことがなかったから、うれしかったです。それから、とってきた魚をみんなのケースから、大きな水そうの中に入れました。きれいな水そうで魚も気持ちよさそうに泳いでいました。ヌマエビがたくさんいました。

次の月曜日、学校に着いたら、すぐ水そうを見ました。ヌマエビが全部食べられていました。ドンコもいなくなっていました。かわいそうでした。「同じ水そうにいれるんじゃないか。」と思いました。

この日、ふじ本さんに、オオサンショウウオはどんな生き物なのか教えに来てもらいました。オオサンショウウオは、とてもきちょうな生き物で、特べつ天ねん記ねん物というそうです。オオサンショウウオは、日本と中国とアメリカの一部にしかいないそうです。日本でも、いるところがきまっています。寒い所にはいなくて、ひょうごけんや鳥とりけんに、たくさんいるそうです。大むかしには、世界のどこにでもいたそうですが、今、生きのこっているのは少ないです。そんなオオサンショウウオが、わたしたちの与布土川に生きのこっていてくれてうれしいです。いなかったら、こんなたいけんもできなかったと思います。オオサンショウウオは、きれいな水の所でしか、たまごをうめないとふじ本さんから聞きました。与布土川の自ぜんがなくならないようにして、これからもずっとオオサンショウウオがたまごをうめる川になるように、わたしも気をつけていこうと思いました。

### まとめ

1年間を通して子どもたちと環境体験学習に取り組んだが、一番楽しんだのは私かもしれない。子どもたちは、自然の中で教室とは違う輝きを見せ、生き生きと活動していた。自然への関心が高まっただけでなく、相手の良さを認め合い、子どもたち同士が繋がることのできたように思う。

最後に、子どもたちに本物の体験をさせていただいた地域の素晴らしいゲストティーチャーの方々に感謝致します。ありがとうございました。



まとめのイラストマップ

## 与布土小学校3年生 環境体験学習をサポートして

藤本邦彦（山東の自然に親しむ会）

与布土小学校3年生の学習活動をサポートするにあたり、以下の点について留意した。

- ① ふるさと与布土（ようど）の身近な自然環境の素晴らしさを伝える。
- ② 身近にありながら気づくことのなかった自然のおもしろさ、楽しさを伝える。
- ③ 各活動では出来るだけ専門的な知識や経験を持った地域の人材のサポートを得る。
- ④ 大人が体験して「楽しい」と思え、知的な興奮を感じられるような活動を準備する。
- ⑤ 「実物の自然」を、見る、聴く、触る、嗅ぐ、味わうなど、しっかり五感で感じる活動にする。

①私たちのふるさと「与布土（ようど）」とはどんな場所なのか？私たち地域の大人自身がそれを十分に知っているとは言えない。地域の自然や歴史、その価値や魅力、素晴らしさについて、そもそも私たち地域の大人たち自身が知識も自覚もないというのでは、子供達にふるさとの魅力や素晴らしさを伝えることはできない。

私たち「山東の自然に親しむ会」は2004年「ひとほくキャラバン」をきっかけに、地元地域の自然に親しみ、学習、調査、観察を続け、ふるさとの自然を「知る」活動を行ってきた。そうした経験と成果を活かして、地元小学校のサポート活動を続けている。

身近な自然環境への無理解から、貴重な自然が失われたり、ふるさとに魅力を感じられない住民が増えている。そんな中、地域の子供達に身近な自然環境の素晴らしさやふるさとの魅力を知ってもらうこと、ふるさとを好きになってもらうことは、地域にとって大変重要なことである。

②活動を行った場所は何処も子供達にとっては自宅の近所や通学路など見慣れた場所。そんな身近な場所に今まで気付かなかったおもしろい自然があることを子供達は知り、身近な風景が違ったものを感じられるようになったと思う。

③昆虫観察では地元の「虫はかせ」波多野さん、モリアオガエル観察では南但馬自然学校の増田さんなど、地域の豊かな人材を活かして、よりレベルの高い活動が実現できた。波多野さんや増田さんのお話は大変専門的でありながら子供達にはとてもおもしろかったようで、その「高度な専門知識」を子供達は好んでレポートや感想文などで紹介していた。

④私たちが最も心がけたのが「子供だまし」のような活動にしないということ。たとえ子供相手であっても、私たち大人が楽しめて知的興奮を感じられるような内容にしたいと考え、準備した。子供達は大人が考える以上に注意深く好奇心旺盛である。子供達が活動後に作成した「いきもの新聞」や感想文には、私たちが想像する以上に豊かな知識や予想外の好奇心、そして感動が書き込まれていた。

⑤教室など屋内で、写真やスライド、映像などを使い自然を学ぶといった活動はできるだけ避けた。実際に自然の中に足を踏み入れ、風や温度を感じ、実物を触り、臭い、味わい、自然を五感全体で感じる事が大切だと考える。モリアオガエルの卵塊を触った感触、虫の臭い、桑の実の美味しさ、川の中で偶然出会ったオオサンショウウオの姿と背中感触。すべてに子供達は感動していた。初秋の川の冷たい水に驚き、そのうち冷たさに慣れていつのまにか魚とりに夢中になっている子供達。本物の自然に優る教材はあり得ない。子供達は五感で自然を感じる楽しさを十分に体験してくれたと思う。最後に

本学年は人数も少なく（8人）、子供達ひとりひとりの興味や疑問に十分に対応でき、安全面での心配もほとんどなかった。地域の豊かで貴重な自然といい、あまりに恵まれた環境であると言える。

そんな与布土小学校であるが、現在統廃合の対象となっており、平成22年度限りでの廃校が決定されつつあることはあまりに残念である。地域の宝であるべき小学校を失うことは地域社会の衰退を招くだろう。私たち地域の将来にわずかな希望を見出そうとする者にとって、大変な正念場を迎える。地域に限らない社会全体の希望となるべき小学校をこのように扱う事は、決して許される事ではない。

与布土ダム建設により、今後与布土川の環境悪化が進むであろうことも同様に、地域の将来に暗い影を落としている。子供達の可能性の豊かさとは対照的な現実に、胸が塞がれる思いである。